

2017 年度 学生生活アンケート結果について

実施期間：2017 年 11 月 1 日～12 月 25 日

実施方法：学生部委員会が学生ポータルを利用してアンケートを実施、集計した。

その集計結果をもとに IR 推進室にて分析を行った。

回答数：352 人/873 人中(休学生含む) 回収率：40.2%

内訳

() 内は 2017.5.1 在籍者数

	大学院	芸術学部	短期大学	専攻科
1 年次生	1 (9)	92 (190)	96 (156)	4 (22)
(回収率)	11.1%	48.4%	61.5%	18.1%
2 年次生	1 (12)	46 (126)	57 (132)	0 (14)
(回収率)	8.3%	36.5%	43.2%	
3 年次生		26 (108)		
(回収率)		24.1%		
4 年次生		29 (102)		
(回収率)		28.4%		
計	2 (21)	193 (526)	153 (288)	4 (36)
回収率	9.5%	36.7%	53.1%	11.1%

別紙のアンケート集計結果をもとに、一部「私立大学学生生活白書 2015」と比較検討し若干の知見を得られたので報告する。(回答数が少ない大学院、専攻科は除外した。)

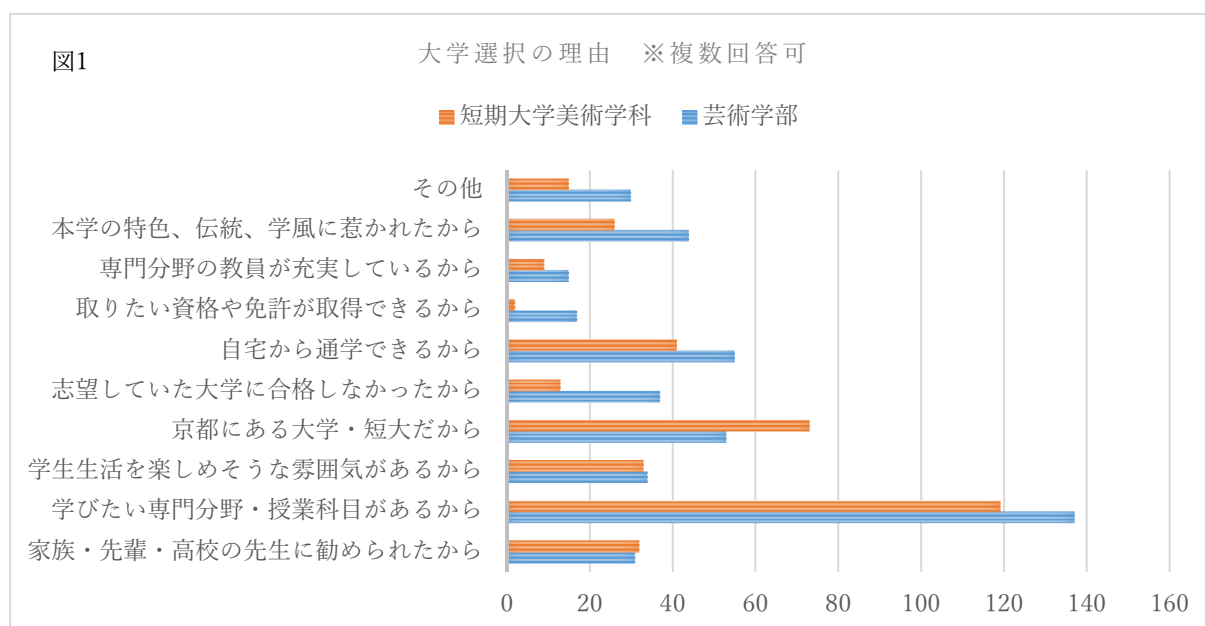
※「私立大学学生生活白書 2015」

(http://www.shidairen.or.jp/blog/info_c/support_c/2015/09/29/18118)

日本私立大学連盟加盟大学で 2014 年 10 月に実施された「第 14 回学生生活実態調査」の分析結果を日本私立大学連盟の学生委員会がまとめたものである。

■進学理由・充実度

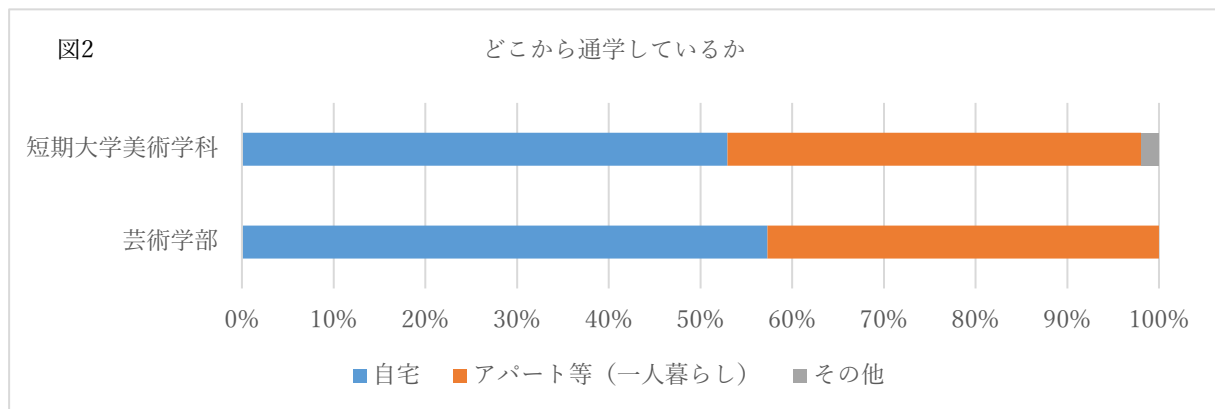
(1) 本学を選択した理由



本学を選択した理由は、四大では1位が「学びたい専門分野・授業科目があるから」、2位「自宅から通学できるから」、3位、「京都にある大学・短大だから」である。

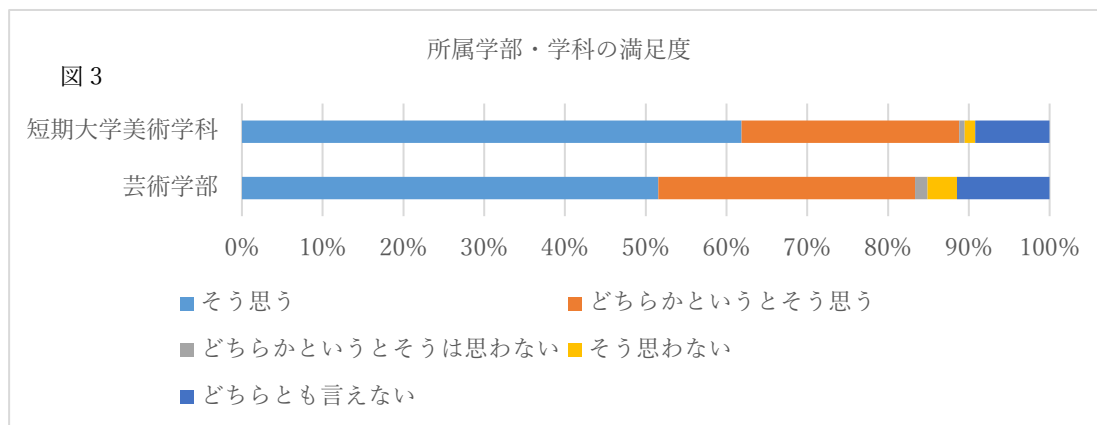
短大においても1位は「学びたい専門分野・授業科目があるから」、2位「京都にある大学・短大だから」、3位「自宅から通学できるから」となっている。(図1)

「自宅から通学できるから」を大学選択の理由とする傾向は全国的に見ても高く、「私立大学学生生活白書 2015」によると、1位は「自宅からの通学が可能だったから」となっており、「自宅から通学できる」は、大学選択の上で重要な要素であると考えられる。

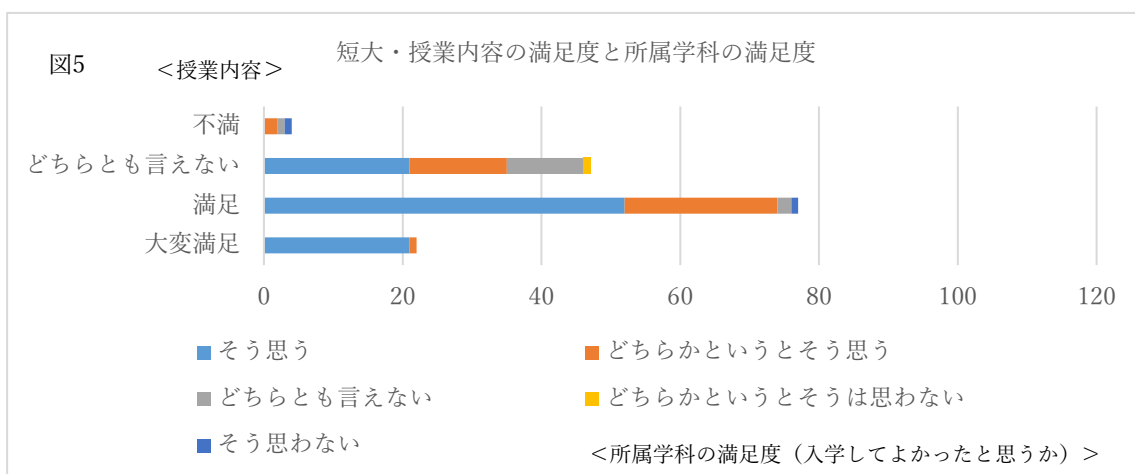
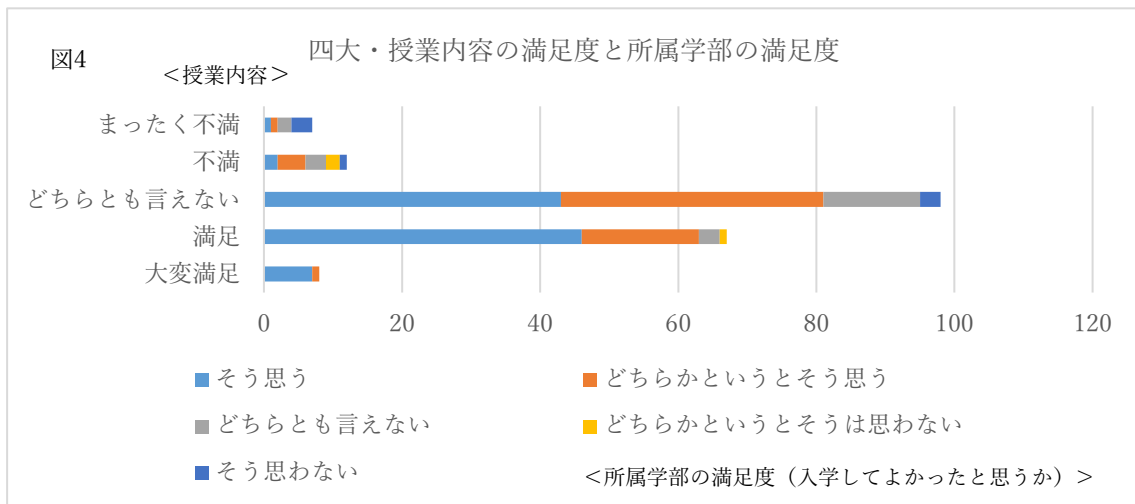


本学の自宅から通学する学生と自宅外学生の比率は上記の表のとおりで、自宅から通学する学生は四大で57.3%、短大で52.9%、自宅外通学の学生は四大で42.7%、短大では47.1%で、本学でも自宅から通学する学生の比率が若干高いという結果となった。(図2)

(2) 所属学部・学科の満足度



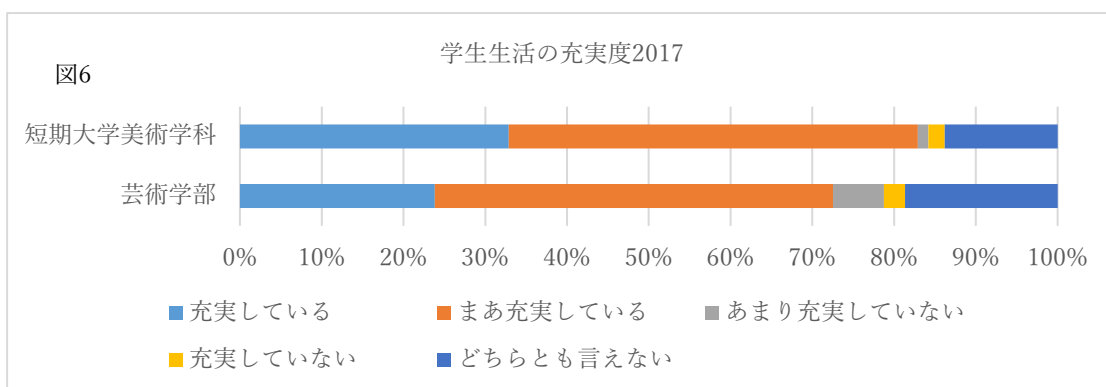
「所属する学部・学科に入学してよかったと思うか」に対し、四大、短大とも、「そう思う」「どちらかというと思う」が80%を超え満足度は高いと考えられる。(図3)



授業内容の満足度と所属学部・学科の満足度をみると、授業内容に満足している学生は所属学部・学科への満足度が高い。ただ、四大は授業内容に関して「どちらとも言えない」と回答した学生が51.2%を占めている。この層の学部への満足度は、現在は「そう思う」「どちらかというと思う」で82.6%となっているが、今後注意が必要であると思われる。(図4)

短大は授業内容に関しては、「大変満足」「満足」で66%となっており、「不満」と回答した学生は2.7%である。「どちらとも言えない」と回答した学生も、74.4%が学科への満足度を、「そう思う」「どちらかというと思う」としており、概ね良好であると考えられる。(図5)

(3) 学生生活の充実度



学生生活の充実度は、「充実している」「まあ充実している」が四大72.5%、短大83.0%となっており概ね充実した学生生活を送っていると思われる。(図6)

図7 <学生生活の充実度> 四大・学生生活の充実度と所属学部への満足度

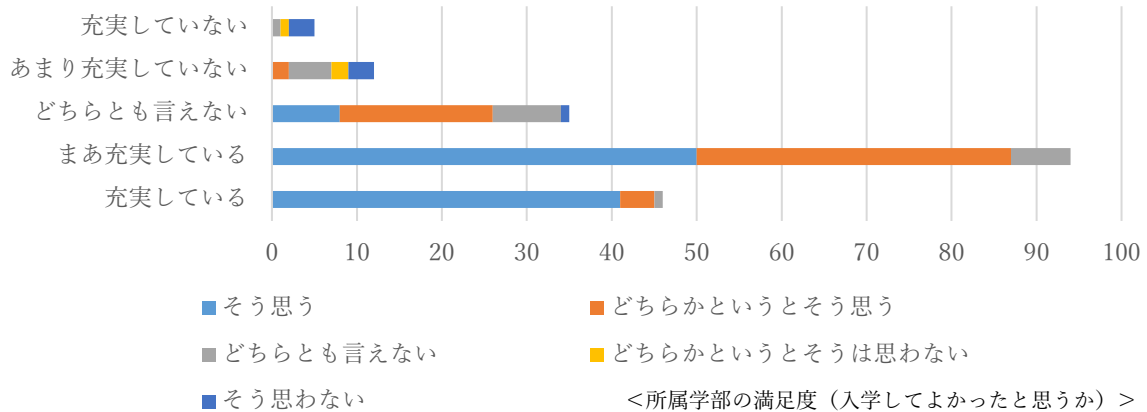
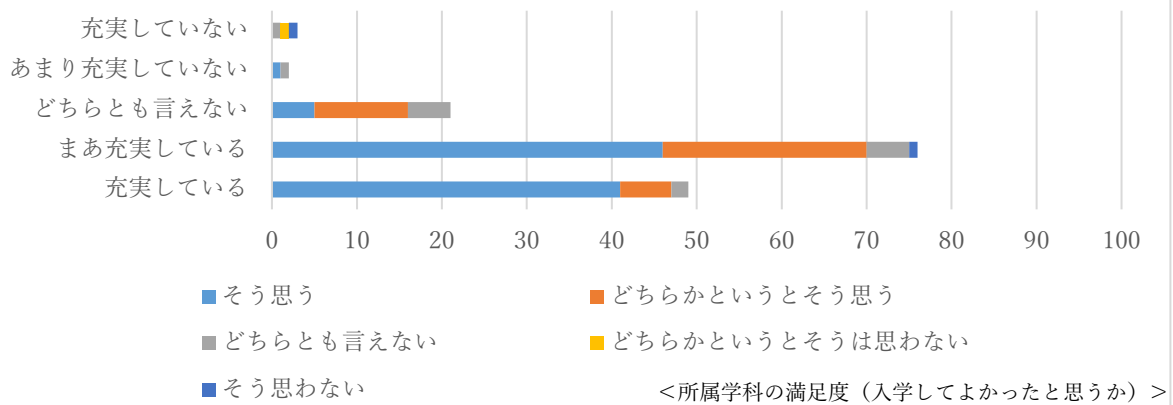
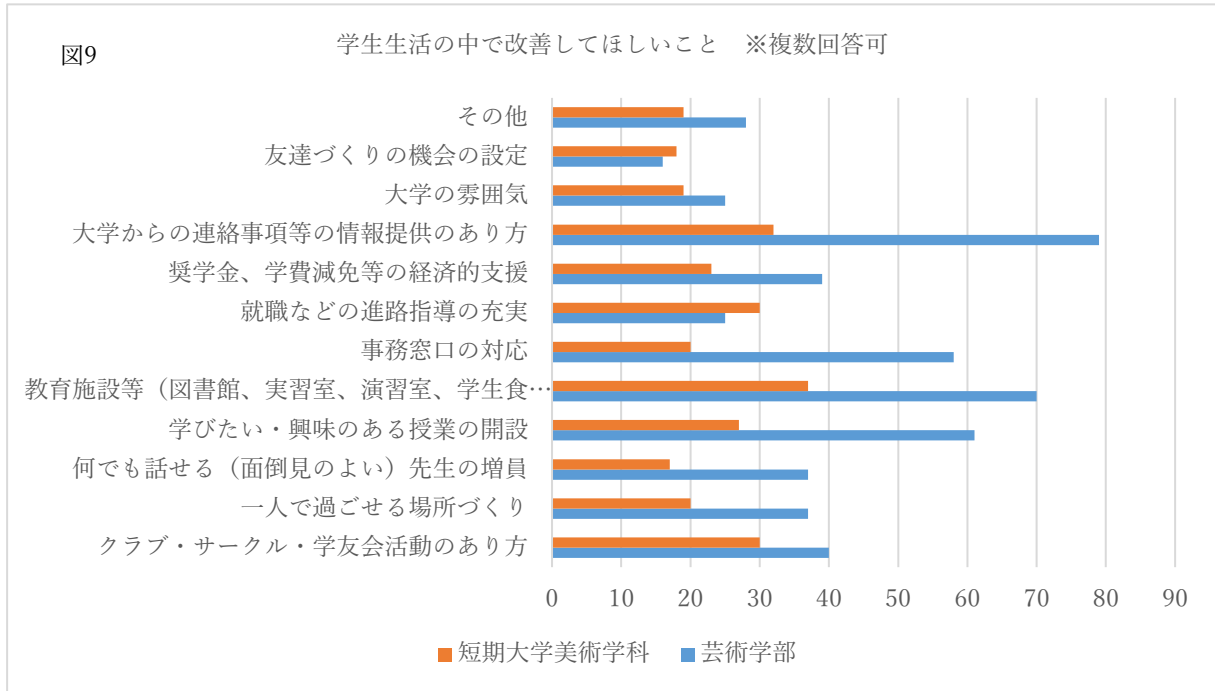


図8 <学生生活の充実度> 短大・学生生活の充実度と所属学科への満足度



学生生活の充実度と所属学部・学科の満足度をみると、学生生活が充実している学生は所属学部・学科への満足度が高いと考えられる。(図7、図8)

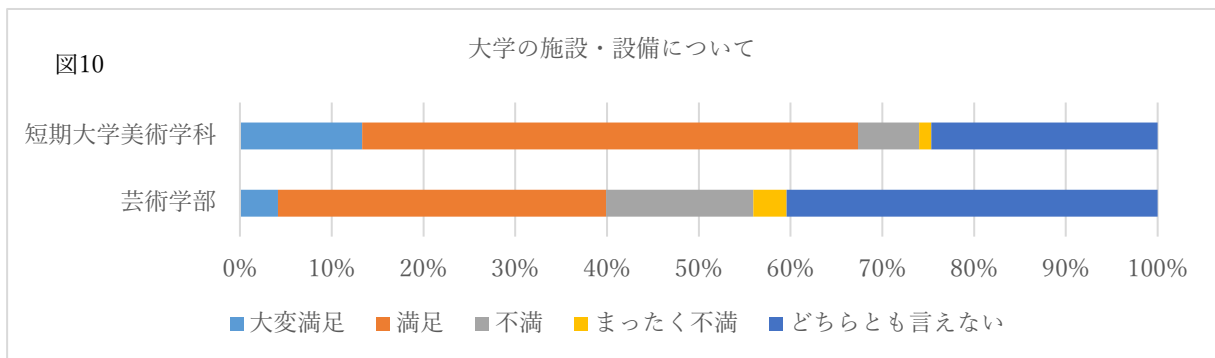
(4) 学生生活の中で改善してほしいこと



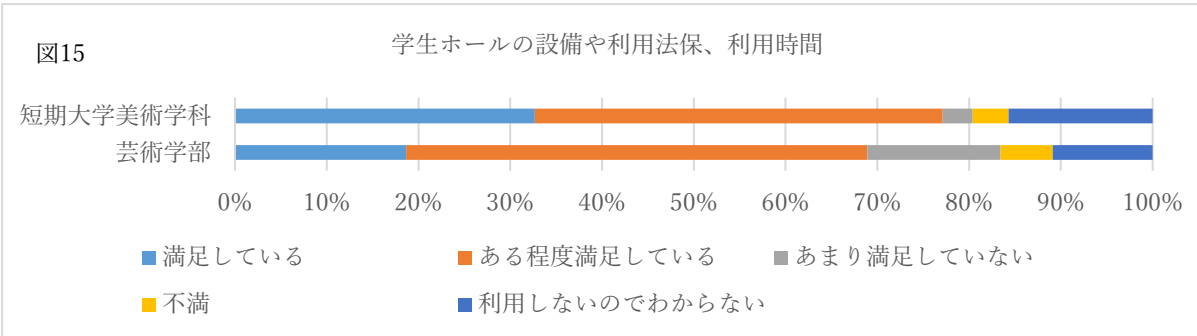
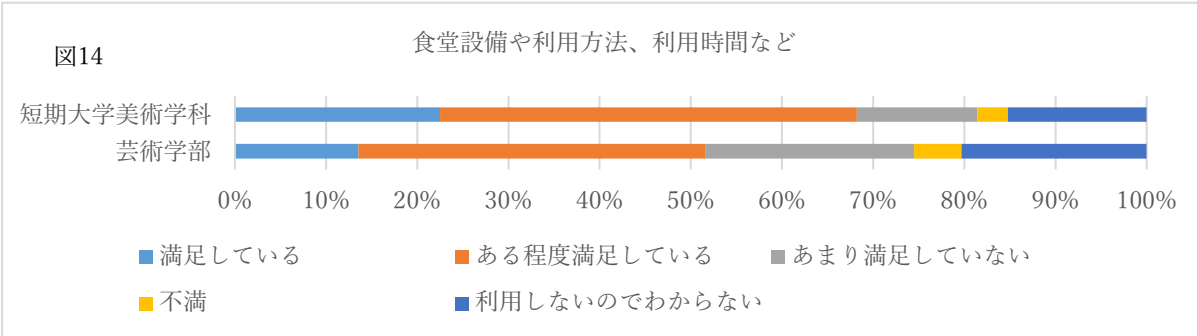
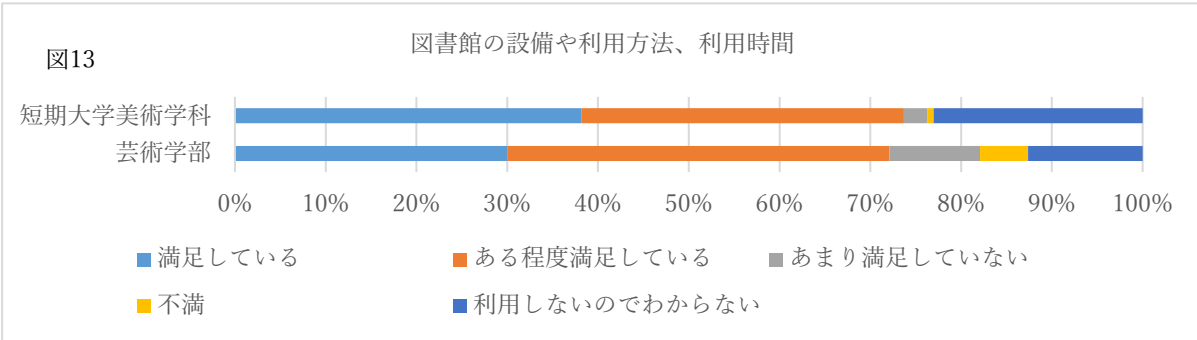
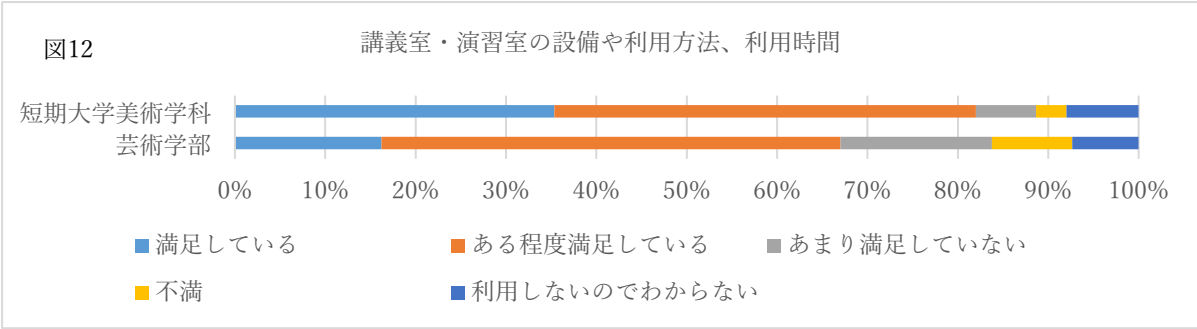
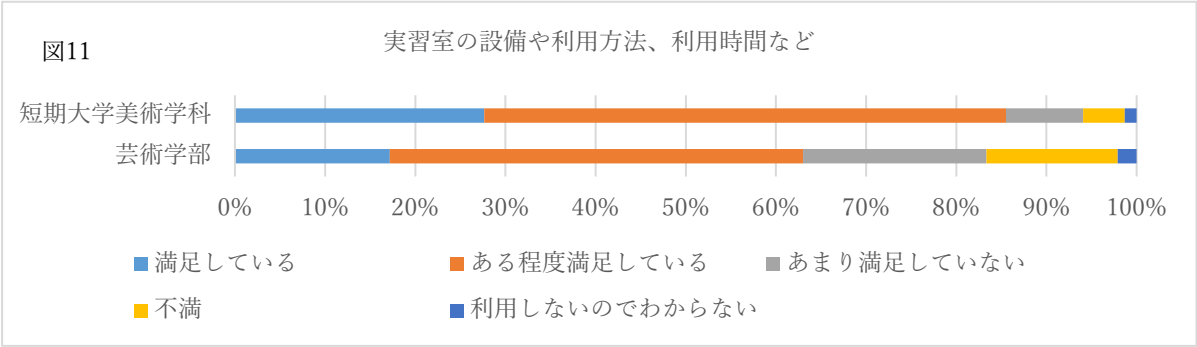
四大の改善してほしいという要望の第1位は、「大学からの連絡事項等の情報提供のあり方」、2位は「教育施設等（図書館、実習室、演習室、学生食堂、学生ホール等）の充実」、「学びたい・興味のある授業の開設」という結果となった。

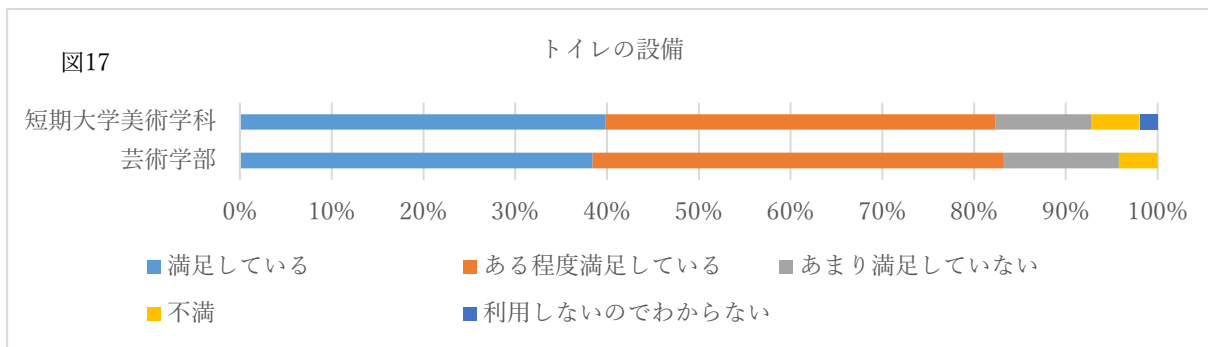
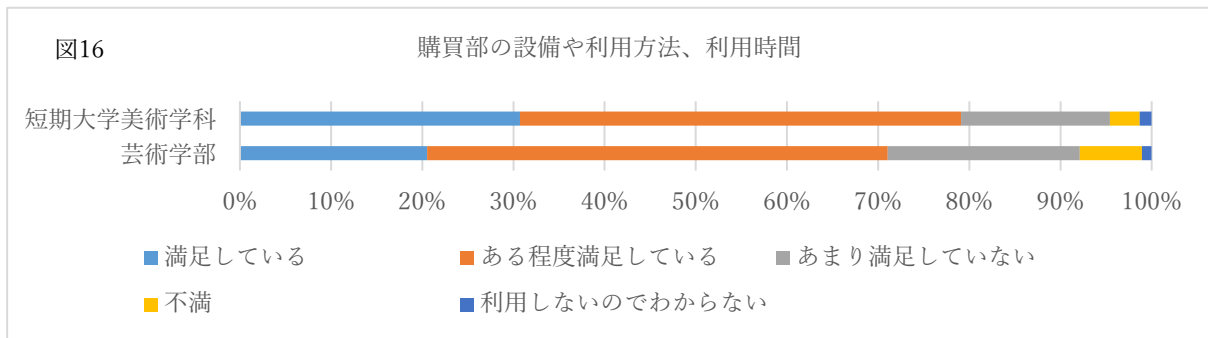
短大の1位は「教育施設等（図書館、実習室、演習室、学生食堂、学生ホール等）の充実」、2位は「大学からの連絡事項等の情報提供のあり方」、3位は「就職などの進路指導の充実」「クラブ・サークル・学友会活動の在り方」という結果で、順位は逆であるが同じ項目が上位2位を占めた。（図9）

大学からの情報提供の在り方については、今後学生ポータルでの情報発信が充実し、学生に浸透していくことで改善されていくものと考えられる。



改善の要望が高い「教育施設の充実」について、「大学の施設・設備について満足していますか」という問いに対する回答を見ていくと、四大では「大変満足」「満足」が40.0%で、「どちらともいえない」が40.4%と一番高い比率を示しているのに対し、短大では67.3%が「大変満足」「満足」と回答しており、「どちらともいえない」は24.7%である。四大と短大では教育施設・設備に対する満足度に大きな差が認められた。（図10）





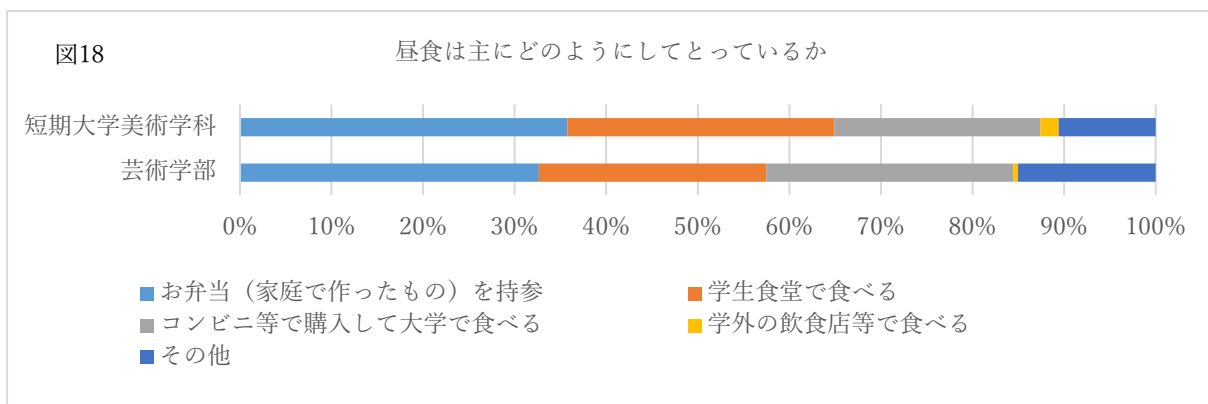
一方で、個々の施設・設備についての設問には、「満足している」「ある程度満足している」が70%を超えている施設が多い。（「利用しないのでわからない」が50%以上の施設を除く）（図11～図17）

その中で70%より低いのは、四大は「実習室」（図11）「講義室・演習室」（図12）、「学生食堂」（図14）、短大では「学生食堂」（図14）となっている。全体的に教育施設に対する満足度は四大の学生の方が低い結果となった。

四大、短大とも満足度が低かったのは「学生食堂」であるが、「利用しないのでわからない」と回答した学生を除くと、「満足している」「ある程度満足している」と回答した学生は、四大で64.7%、短大では80.5%である。

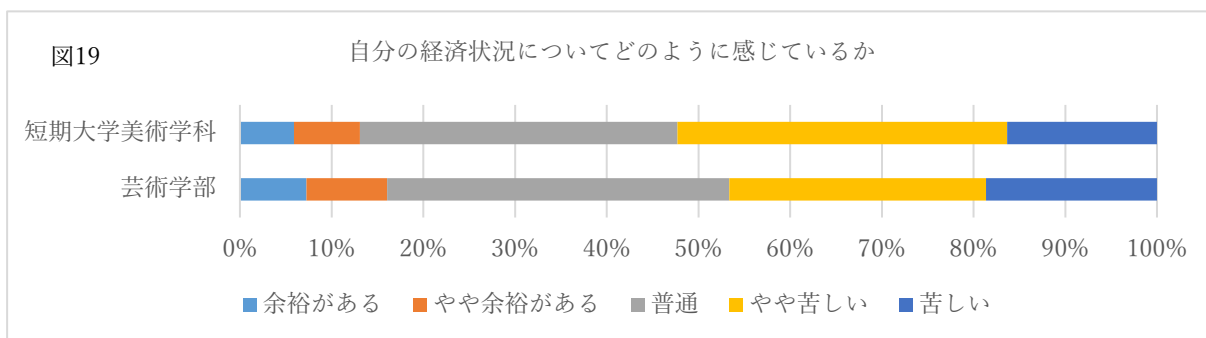
学生部委員会では、定期的に食堂の担当業者と話し合いを重ねているが、今後も改善の努力を継続してゆくことが重要である。また「学生食堂の充実」は、「私立大学学生生活白書2015」でも群を抜いて1位となっていることから、学生にとって学生食堂への期待が大きいことが判明した。

※学生食堂について

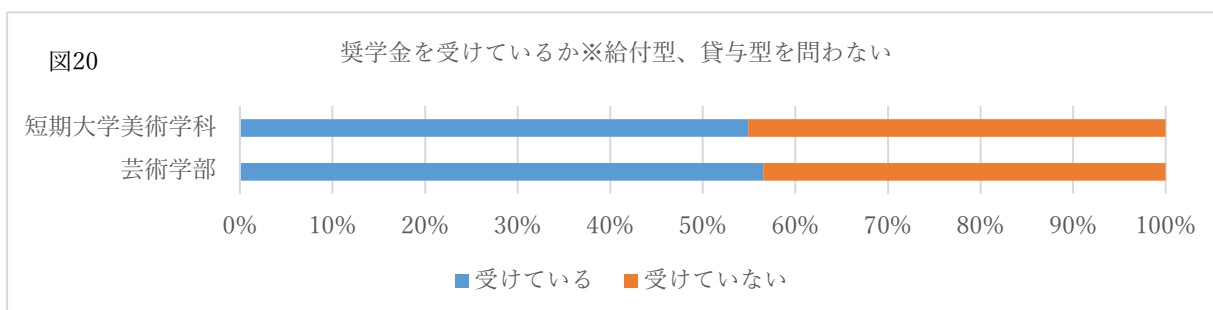


「学生食堂の充実」という要望が強いことは前述したとおりであるが、「昼食をどのようにとっているか」への回答では、1位は四大、短大とも「お弁当（家庭で作ったもの）を持参」となっており、「学生食堂で食べる」は四大では3位、短大では2位である。食堂の利用者が減っている、という学生部委員会の報告が裏付けられた結果となった。（図18）

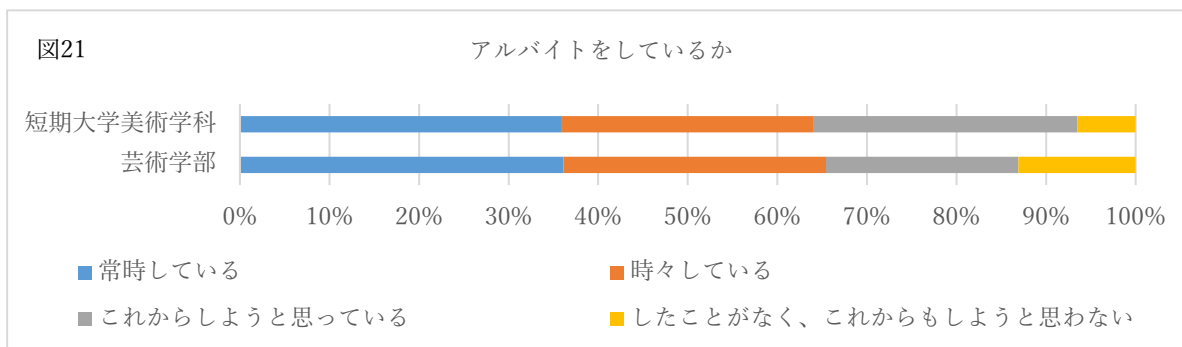
■経済状況



現在の自分の経済状況について、「余裕がある」「やや余裕がある」と回答したのは四大で16.1%、短大で13.1%であり、四大で46.6%、短大で52.3%が「苦しい」「やや苦しい」と回答した。(図19)



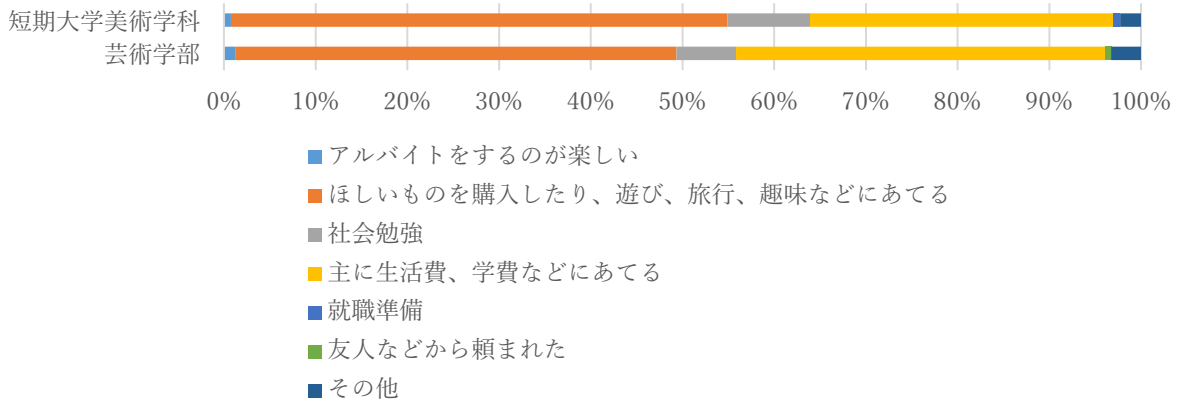
奨学金の状況を見てみると、「奨学金を受けている」は四大56.5%、短大54.9%で、いずれも50%を超える結果となった。(図20)



アルバイトをしている学生（「常時している」「時々している」）は四大で65.4%、短大で64.1%となっている。「私立大学学生生活白書 2015」では73.3%となっているので、全国平均より低い数値である。これは授業時間外も制作に費やす時間が多いという本学の事情が影響していると考えられる。(図21)

図22

アルバイトをする理由・動機



アルバイトをする動機としては「ほしいものを買ったり、遊び、旅行、趣味などにあてる」が四大 (48.1%)、短大とも (54.1%) 1 位で、2 位は「主に生活費、学費などにあてる」(四大 40.3%、短大 33.1%)、3 位は「社会勉強」(四大 6.5%、短大 9.0%) である。「私立大学学生生活白書 2015」でも同様の順位であり、1 位、2 位が高い傾向も共通している結果となった。(図 22)

図23

四大・アルバイトの理由 (自宅・自宅外別)

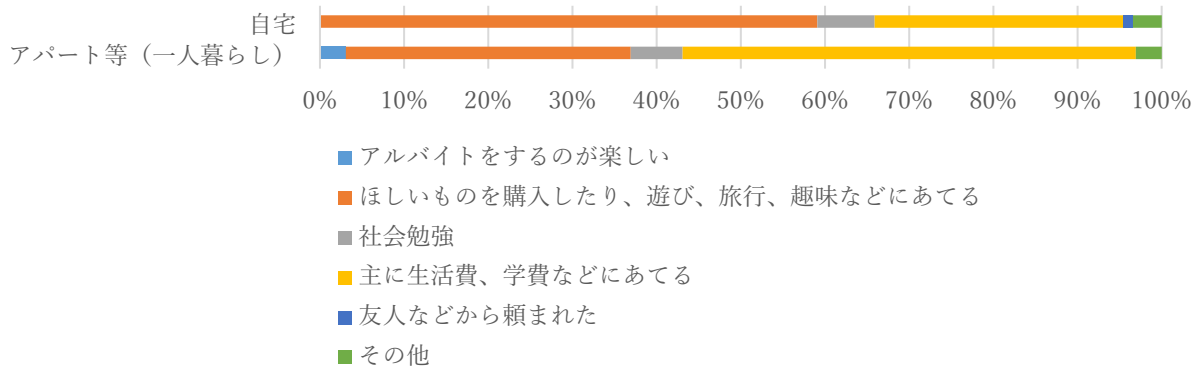
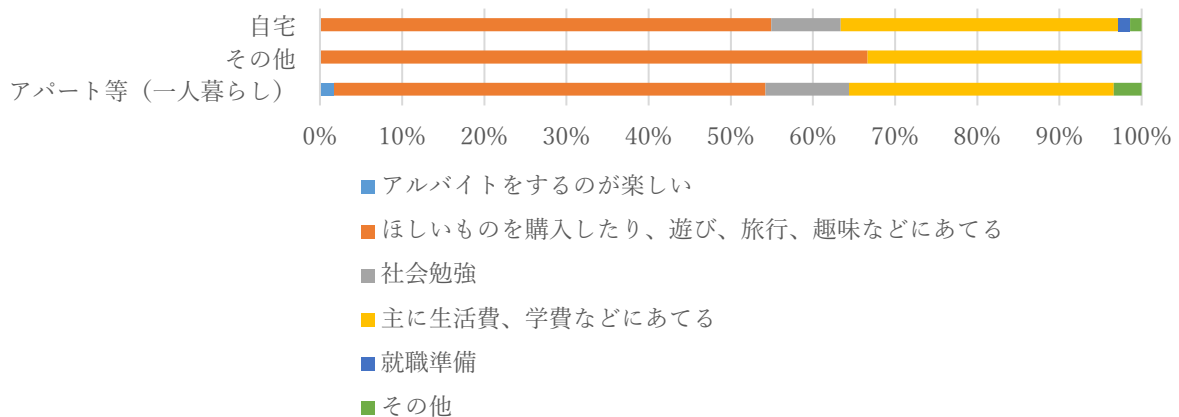


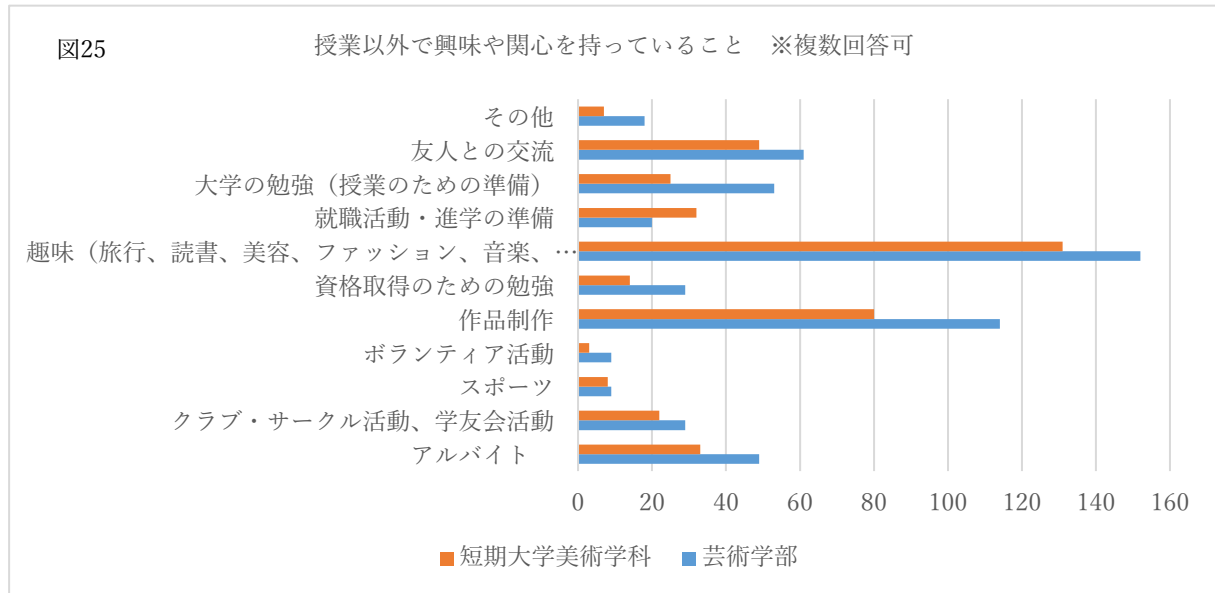
図24

短大・アルバイトの理由 (自宅・自宅外別)



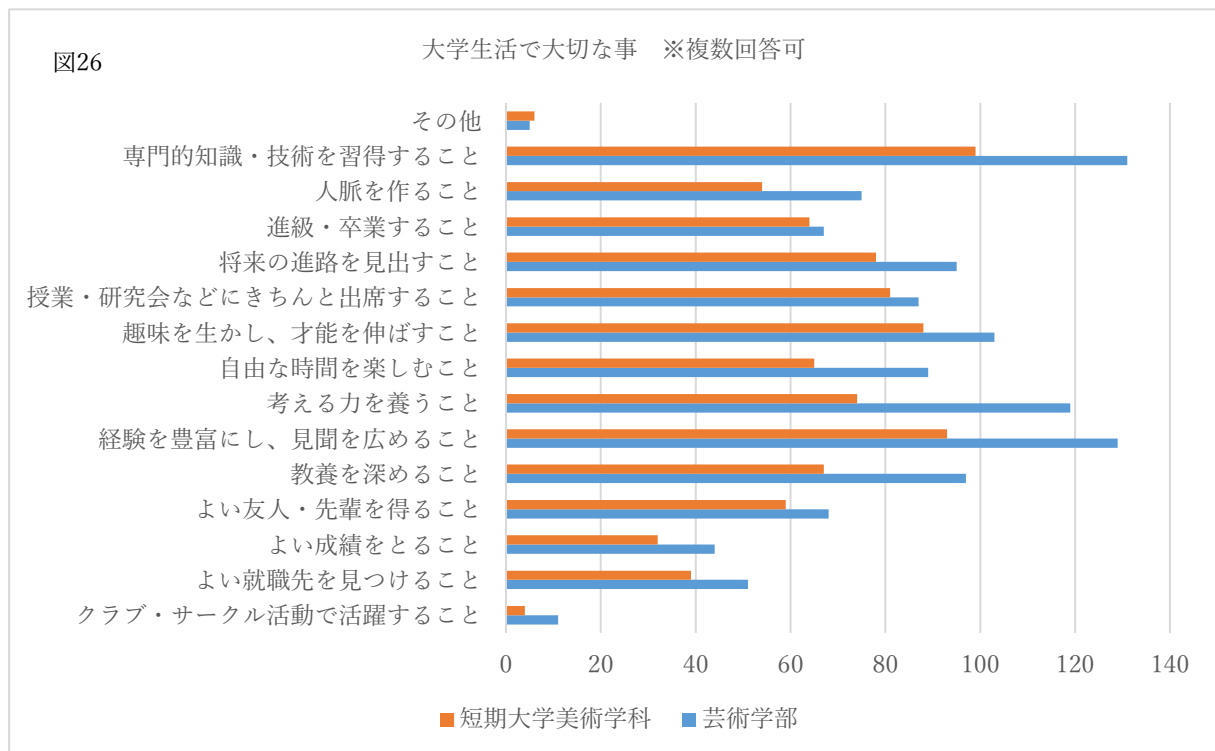
自宅、自宅外通学別にみると、四大は自宅通学の学生の順位は全体の順位と同様であるが、自宅外通学の学生の1位は「主に生活費、学費などにあてる」で、「ほしいものを購入したり、遊び、旅行、趣味などにあてる」と順位が逆になっている。他の動機についても自宅通学の学生よりポイントが低くなっているものが多く、生活のためにアルバイトをしている様子が見える。短大は自宅、自宅外通学の学生ともに1位、2位は全体の順位と同様である。

■大学生生活



「授業以外で興味や関心を持っていること、または時間をかけていることは何ですか」という設問には、四大、短大とも1位は「趣味（旅行、読書、美容、ファッション、音楽、演劇など）」、2位「作品制作」、3位は「友人との交流」となっている。（図25）

「就職活動・進学のための準備」が短大で5位であるのに対し四大は8位で、「就職活動・進学のための準備」は、短大生にとっては切実な関心事であることが明らかになった。

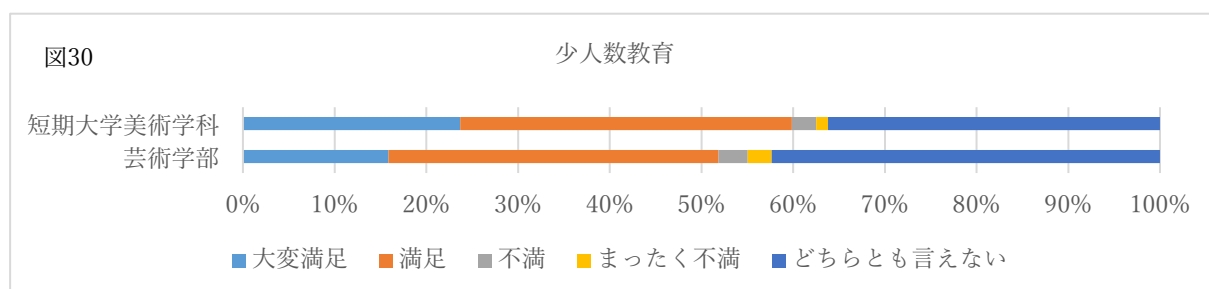
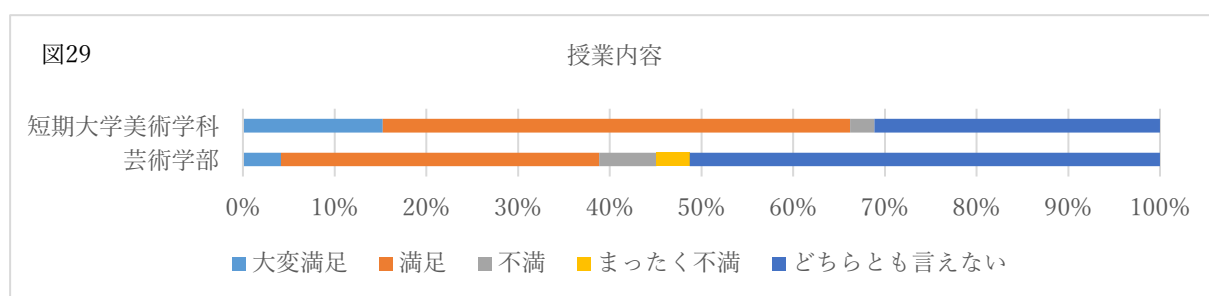
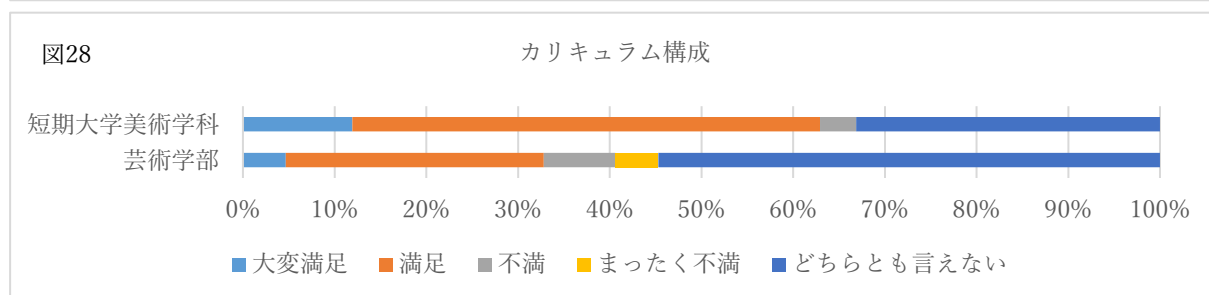
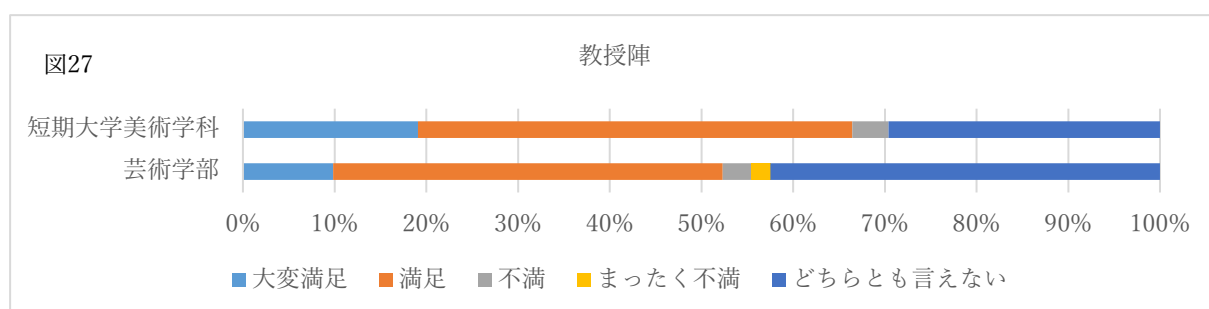


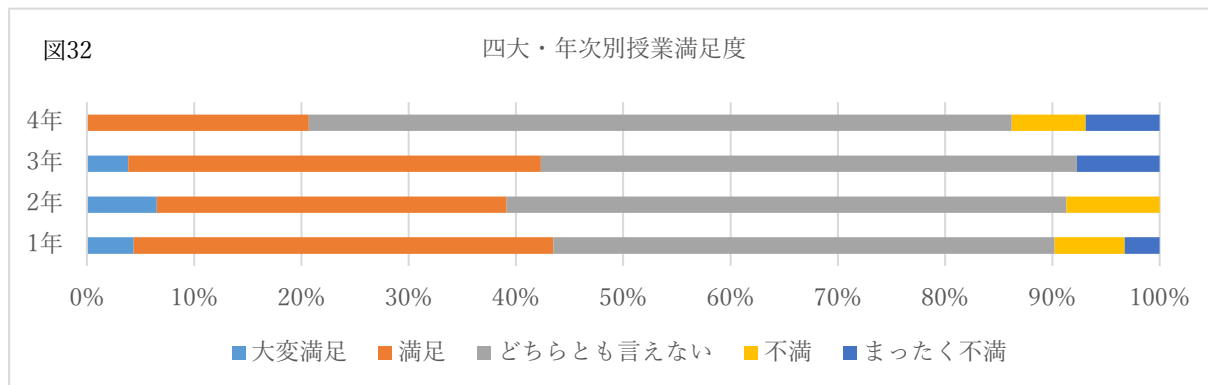
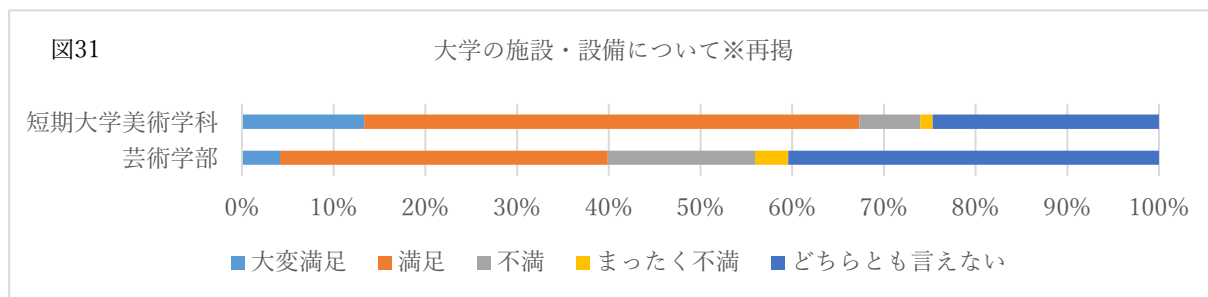
「大学生活で大切だと思っていること」は、四大では1位「専門的知識・技術を習得すること」、2位「経験を豊富にし、見聞を広めること」、3位「考える力を養うこと」となった。

短大は1位、2位は同様であるが、3位は「趣味を生かし、才能を伸ばすこと」で（四大は4位）、「考える力を養うこと」は6位となっている。また、短大で4位の「授業・研究会などにきちんと出席すること」は四大では8位である。（図26）

「私立大学学生生活白書2015」では、1位「経験を豊富にし、見聞を広めること」、2位「専門的知識・技術を習得すること」で本学と順位は逆であるが、同様の結果となっている。この2項目は2006年、2010年とほぼ変わらないようである。3位は「授業・研究会などにきちんと出席すること」となっており、この項目は「よい成績をとること」とあわせて増加傾向を示しているとのことである。本学でも経年的な変化を観察する必要があると思われる。

■正課教育





本学の正課教育について、「教授陣」「カリキュラム構成」「授業内容」「ゼミなどの少人数教育」「施設・設備」の5項目に対する満足度のアンケート結果は図27～図32のとおりである。

短大においては、5項目とも「大変満足」「満足」と回答した学生が60%を超えているのに対し、四大は60%を超えた項目は1つもなく、「大変満足」「満足」と回答した学生は、「教授陣」52.3%、「カリキュラム構成」32.8%、「授業内容」38.9%、「ゼミなどの少人数教育」51.9%、「施設・設備」40.0%となっており満足度は決して高いとは言えない結果である。

四大の「授業内容」の満足度を年次別にみると、どの年次も「大変満足」「満足」と回答した学生は40%前後で、特に4年次生は「大変満足」は0%、「満足」が20.7%と一番低く、「不満」「まったく不満」と回答している学生は10%を超えている。

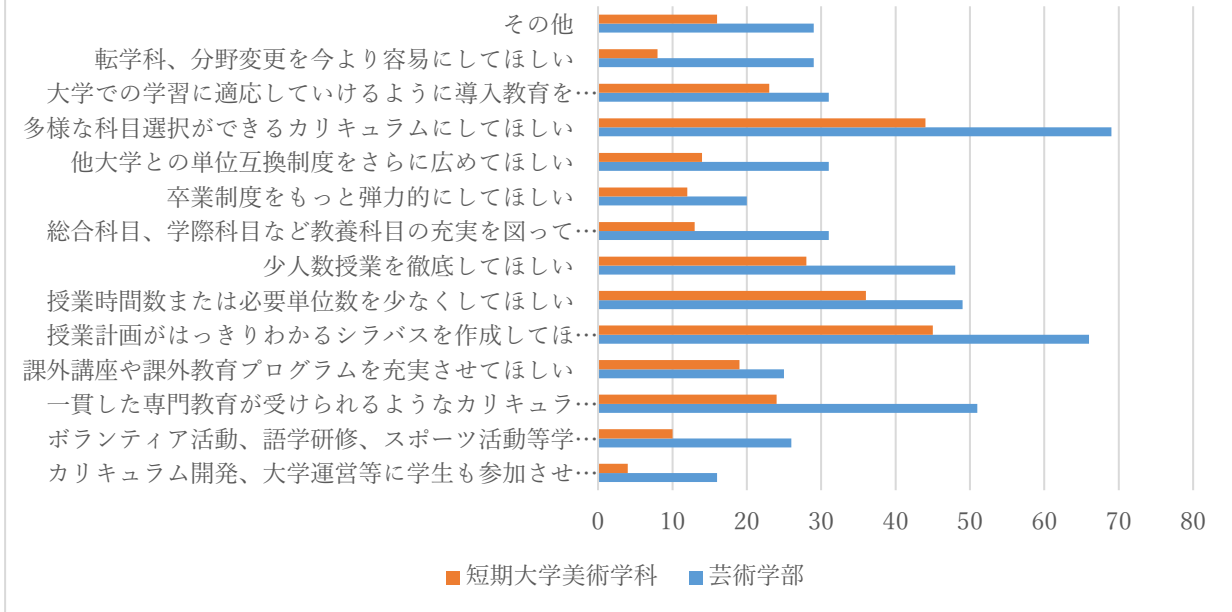
また、四大は「どちらともいえない」と回答している学生が多く、特に「カリキュラム構成」は54.7%、「授業内容」は51.3%を占める。

以上の結果から、早急に四大の「授業内容」の満足度を上げることが重要であることが明確になったが、これらの項目も経年的に変化を観察していく必要があると考えられる。

ただ、「授業内容」に関しては、毎年度実施している「授業評価アンケート」の結果を見ると、決して満足度が低いわけではない。「2017年度授業評価アンケート結果」によると、四大の一般教育科目の満足度の科目平均は4.45(5段階評価)、専門教育科目1は4.06、専門教育科目2選択科目4.25、専門教育科目2必修科目4.33である。すべて4.0以上となっている。毎年度発行されるIR報告書においては、この結果をもとに「特に問題はない」としてきたが、この乖離をどのように判断するべきかについては今後の大きな検討課題である。

図33

教育内容や方法に対する要望 ※複数回答可



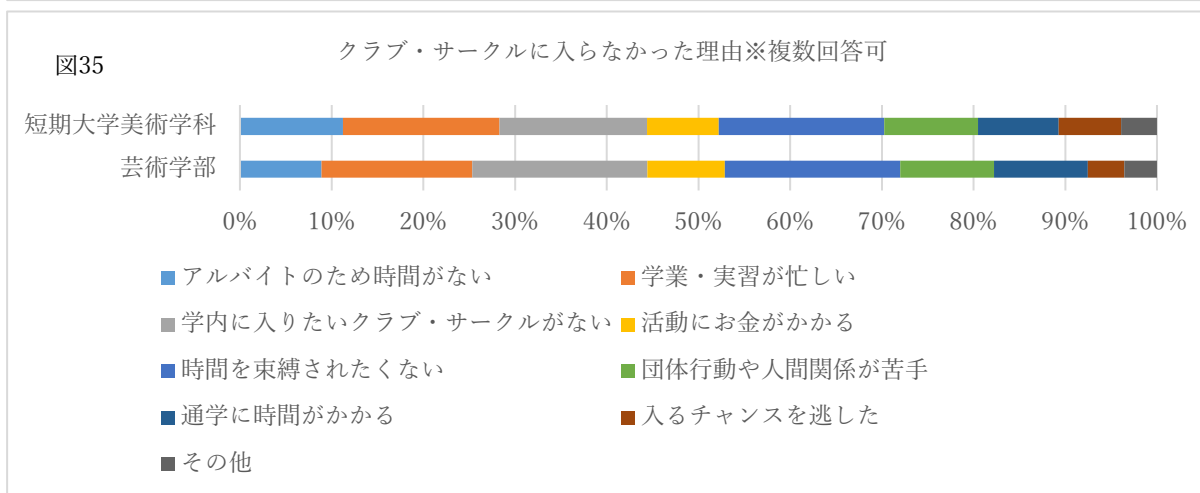
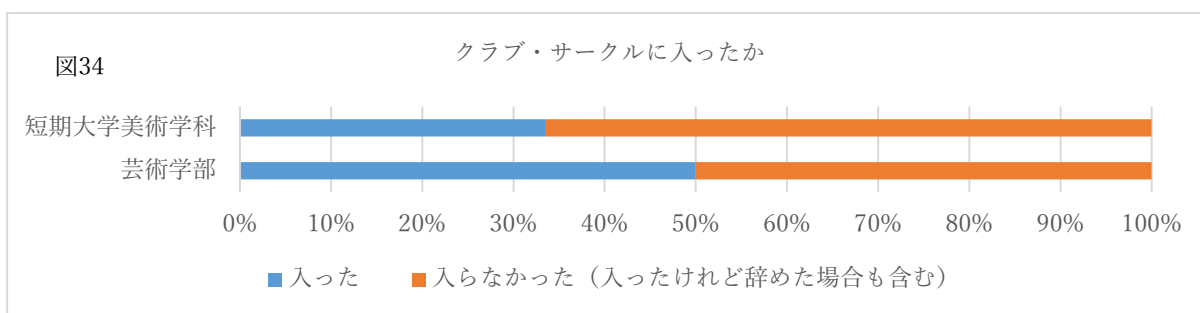
では、「教育内容や方法に対する要望にはどのようなものがあるか」という問いに対する回答を見ていく。四大の1位は「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」、2位は「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」、3位は「一貫した専門教育が受けられるようなカリキュラムにしてほしい」（短大は5位）であった。

短大の1位は「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」、2位は「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」、3位は「授業時間数または必要単位数を少なくしてほしい」（四大は4位）となった。（図33）

「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」という要望についてであるが、シラバスは毎年教務委員会によって記述内容の確認が行われ、年々改善が加えられて充実が図られている。「2017年度授業評価アンケート結果」でもシラバスに対する評価（5段階評価）は、四大では一般教育科目 4.35、専門教育科目 1 は 3.89、専門教育科目 2 選択科目 4.17、専門教育科目 2 必修科目 4.09、短大では一般教育科目 3.82、専門教育科目 3.83、展開科目 4.30、選択演習科目 4.10、専門実習科目 4.28 で決して低いわけではないが、シラバスの充実への要望が四大で2位、短大で1位であるということは、まだまだ改善の余地があると思われる。

「私立大学学生生活白書 2015」では、1位が「多様な科目選択ができるカリキュラムにしてほしい」でこの点では本学（四大1位、短大2位）と共通しているが、2位は「ボランティア活動、語学研修、スポーツ活動等学外での活動も単位認定してほしい」（本学四大11位、短大12位）、3位「総合科目、学際科目など教養科目の充実を図ってほしい」（本学四大6位、短大10位）となっている。本学で要望の強かった「授業計画がはっきりわかるシラバスを作成してほしい」は9位であり、全国的な傾向とはかなり異なったものとなった。

■正課外活動



クラブ・サークル活動への参加率は、四大 50.0%に対し短大は 33.6%で、四大の方が参加率が高い。(図 34)「私立大学学生生活白書 2015」では、「課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)」への参加率は 70.2%となっていることと比較すると、本学の課外活動への参加率はかなり低い結果となった。(図 34)

では、「クラブ・サークルに入らなかった理由」についての回答を見ると、四大、短大とも 1 位は「時間を束縛されたくない」で、四大では同じ比率で「学内に入りたいクラブ・サークルがない」、第 3 位が「学業・実習が忙しい」となっている。短大は 2 位が「学業・実習が忙しい」、3 位「学内に入りたいクラブ・サークルがない」の順である。(図 35)

「私立大学学生生活白書 2015」では、1 位が「アルバイトと両立できない」、2 位「勉強と両立できない」、3 位「入りたいクラブがない」で、2 位、3 位は共通しているが、本学の 1 位が「時間を束縛されたくない」である点は特徴的である。

また、大学の規模別にみると学生数の少ない大学ほど、「入りたいクラブがない」という声が相対的に多いという指摘がされており、本学でも同じ傾向を示している。

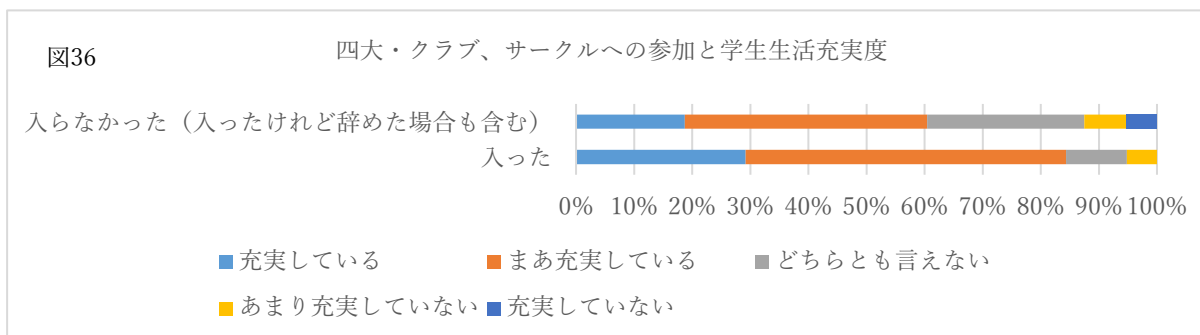
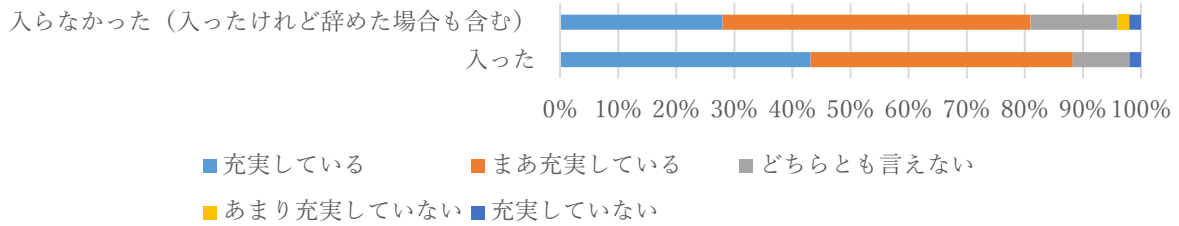


図37

短大・クラブ、サークルの参加と学生生活の充実度



クラブ・サークル活動への参加と学生生活の充実度の関係を見ると、四大、短大ともクラブ・サークルに入っている学生の方が「充実している」「まあ充実している」と回答した学生が多いが（四大 84.3% 短大 88.2%）、短大は参加している学生と参加していない学生との充実度の差は7%程度であるのに対し、四大は24%近い差となった。（図36、図37）

■不安、悩みについて

図38

学生生活の中でどのようなところに満足しているか ※複数回答可

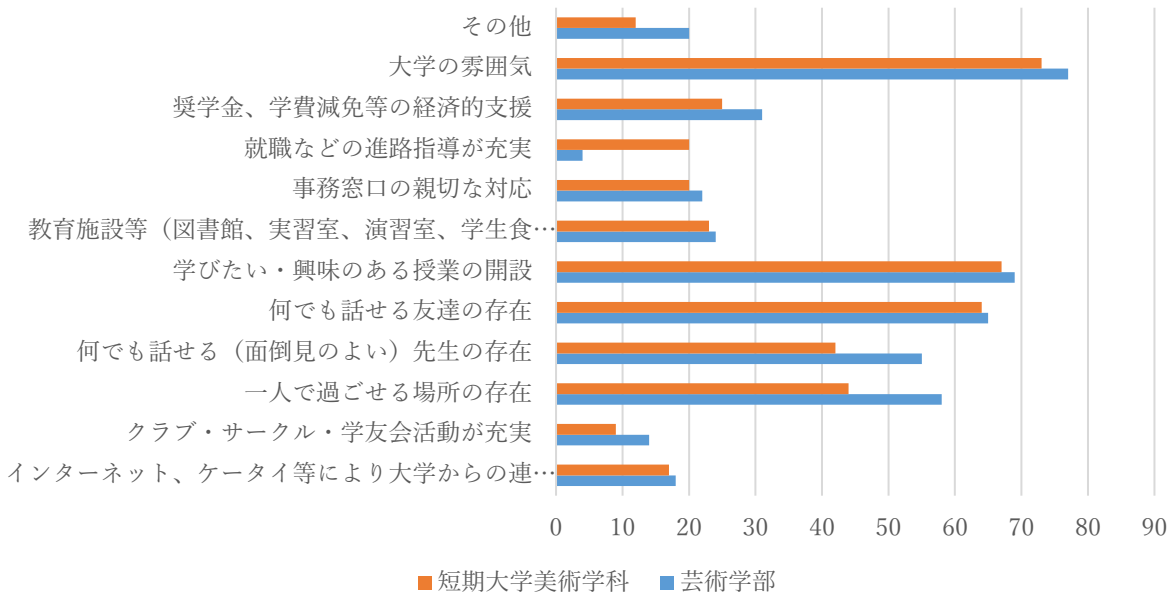
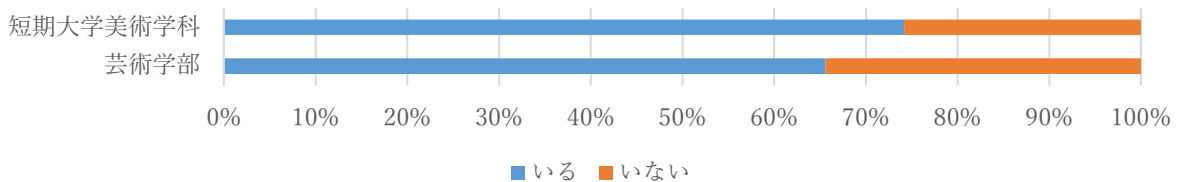


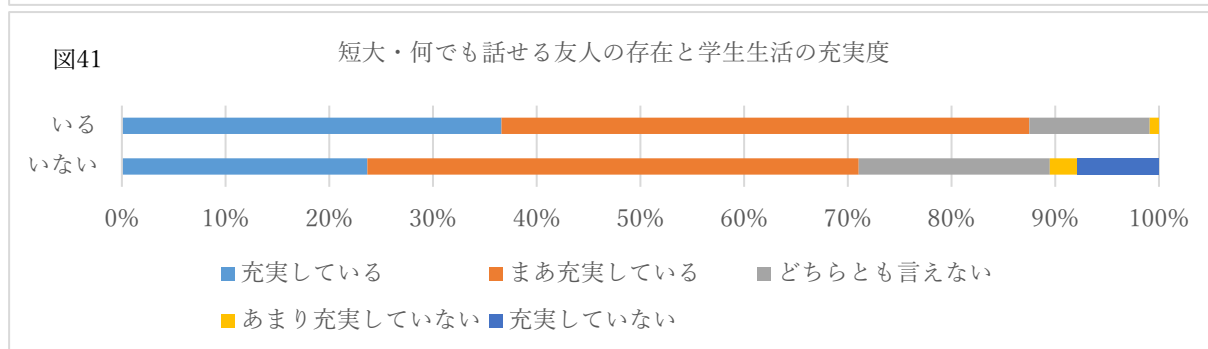
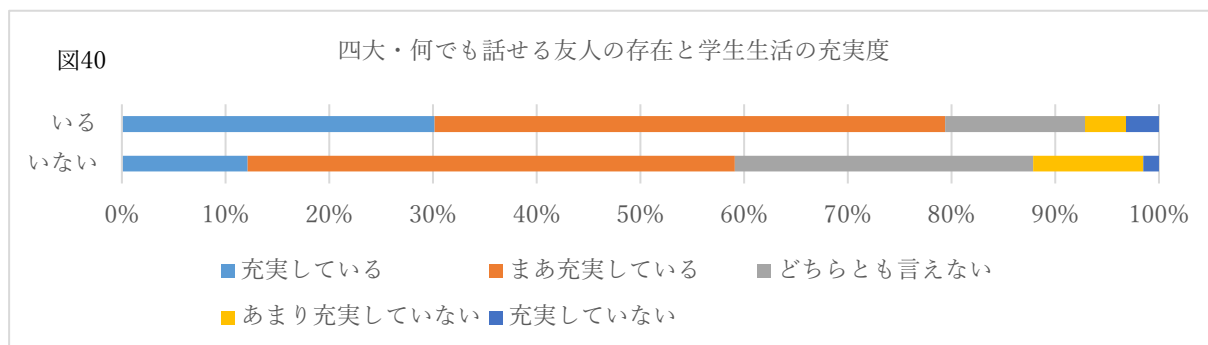
図39

何でも話せる友人がいるか

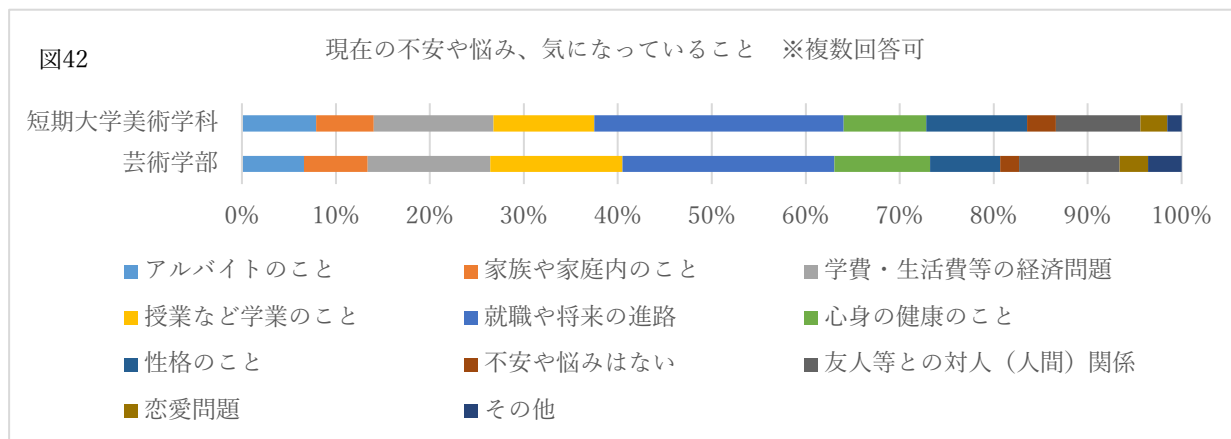


「学生生活のどのようなところに満足しているか」という質問に対し、「何でも話せる友達の存在」は四大（14.2%）、短大（15.4%）とも3位にあがっている。（四大、短大とも1位は「大学の雰囲気」、2位は「学びたい・興味のある授業の開設」）（図38）

では、「何でも話せる友人がいるか」という設問には、四大で65.6%、短大は74.2%が「何でも話せる友人がいる」と回答した。（図39）



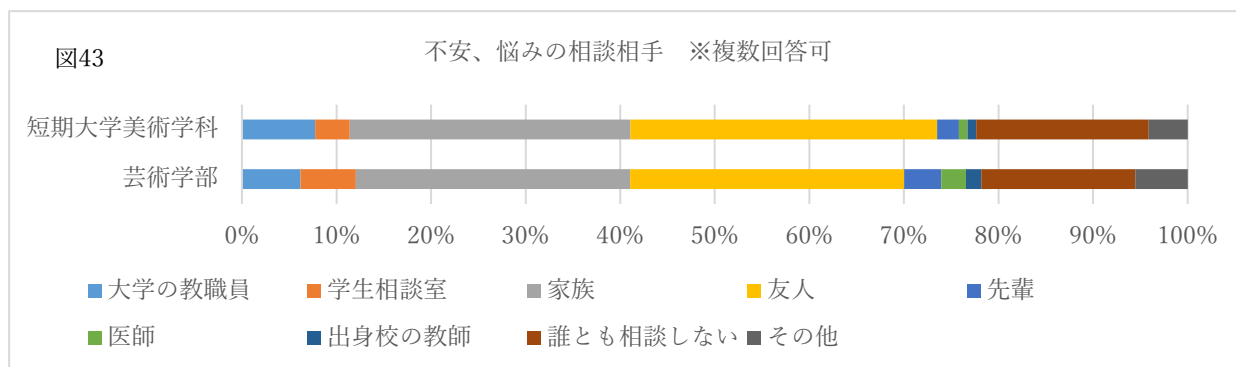
「何でも話せる友人がいる」と回答した学生のうち、四大では30.2%、短大では36.6%が学生生活が「充実している」と回答している。それに対して、「何でも話せる友人がいない」と回答した学生で、学生生活が充実していると回答したのは四大では12.1%、短大では23.1%となった。ポイントの差は四大の方が大きい、学生生活の充実度に「何でも話せる友人」の存在は大きいと考えられる。



「不安や悩みはない」と回答した学生は、四大で2.0%、短大で3.0%しかなく、ほとんどの学生がなんらかの不安や悩みを抱えている結果となっている。(図42)

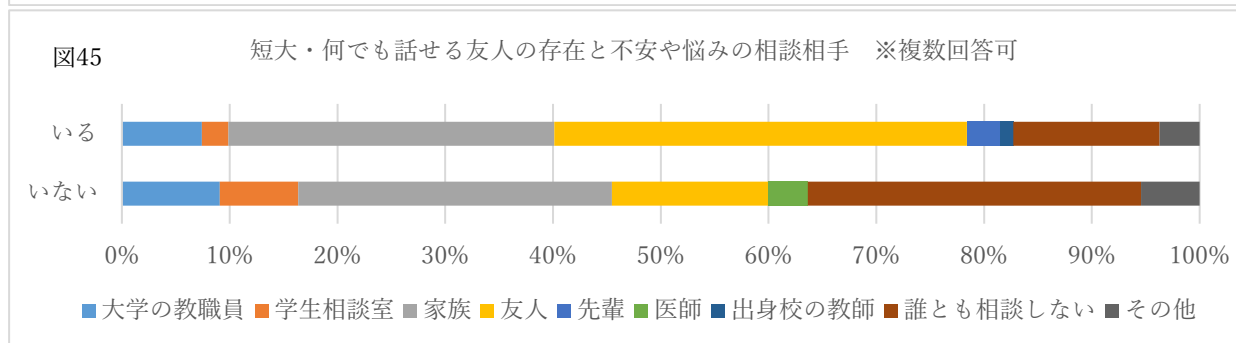
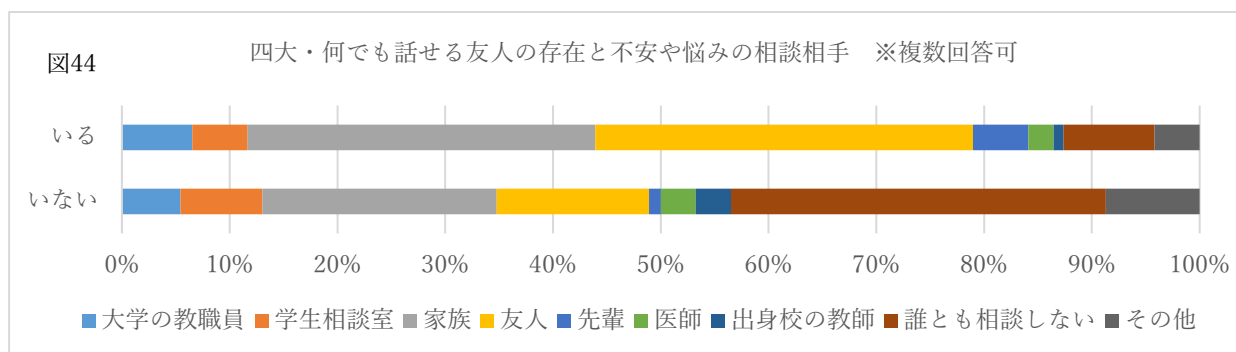
不安や悩みの1位は四大、短大とも「就職や将来の進路」(四大22.5%・短大26.5%)、四大の2位は「授業など学業のこと」(14.1%)、3位は「学費・生活費等の経済問題」(13.1%)、短大の2位は「学費・生活費等の経済問題」(12.7%)、3位は「授業など学業のこと」(10.7%)となっている。(図42)

「私立大学学生生活白書2015」でも、1位は「就職や将来の進路」(46.1%)、2位は「授業など学業の事」(22.8%)、3位は「友人等との対人関係」(16.8%) (本学では四・短とも4位)、4位は「経済問題」(12.3%)で、ほぼ同じ項目が上位であった。



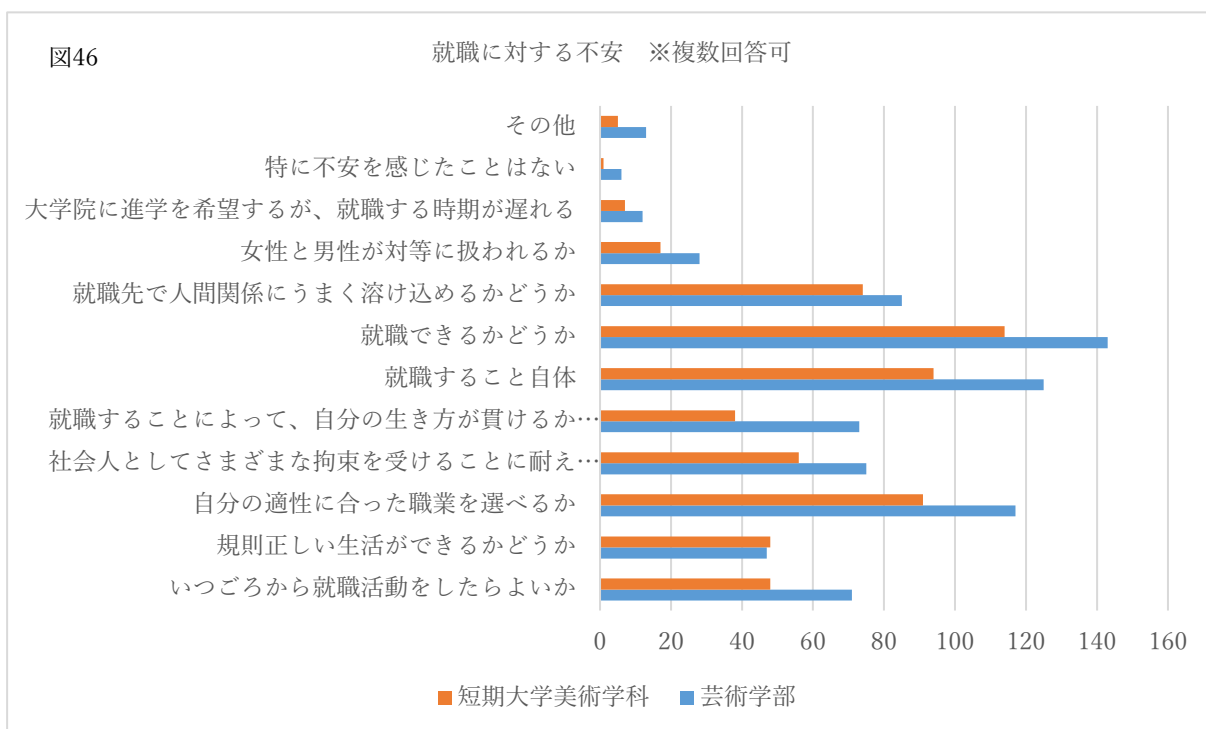
不安や悩みの相談相手の1位は四大、短大とも「友人」(四大 29.0%、短大 32.4%)で、次に「家族」(四大は同率1位で 29.0%、短大 29.7%)と続き、3位は「誰とも相談しない」(四大 16.3%、短大 18.3%)となった。(図43)

不安や悩みとして就職や将来、学業のことがあがっているにもかかわらず、悩みの相談相手として「大学の教職員」は四大で 6.1%、短大 7.8%、「学生相談室」は四大で 5.9%、短大 3.7%である。この傾向は「私立大学学生生活白書 2015」でも同様で、大学が相談相手として活用されておらず、改善の余地があると考えられる。

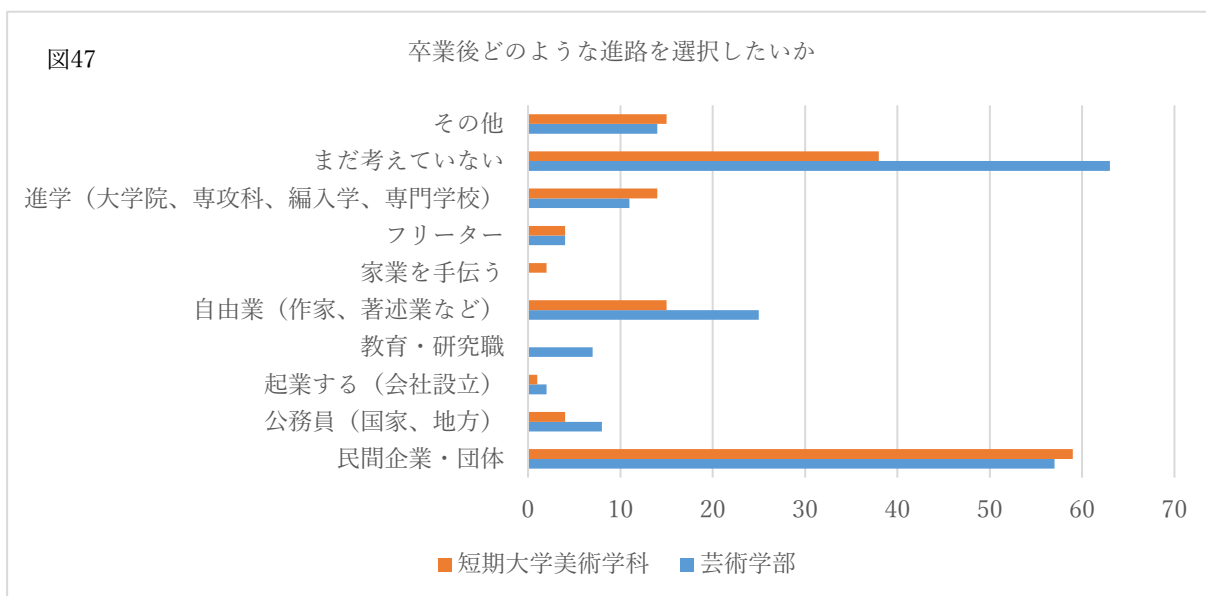


また、「何でも話せる友人がいる」と回答した学生は、相談相手の1位は「友人」(四大 34.4%、短大 37.0%)、2位は「家族」で(四大 31.8%、短大 29.2%)、3位「誰とも相談しない」(四大 8.3%、短大 13.1%)となっている。一方「何でも話せる友人がいない」と回答した学生は、「誰とも相談しない」(四大 34.0%、短大 30.0%)が1位である。2位が「家族」(四大 21.3%、短大 28.1%)、3位「友人」(四大 13.8%、短大 14.0%)と続くが、一人で不安や悩みを抱えている学生の姿が想像される。

■進路・就職について

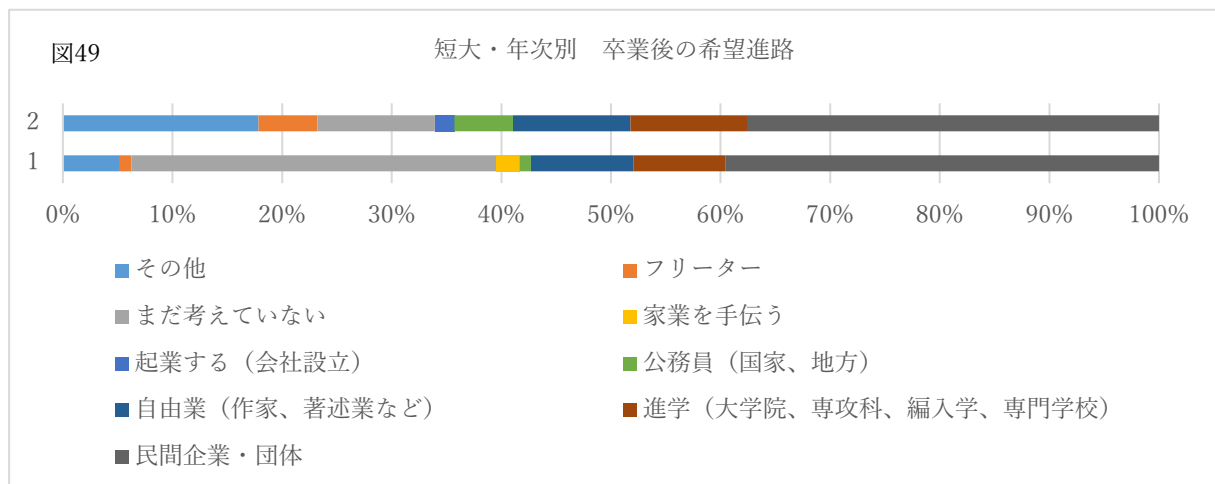
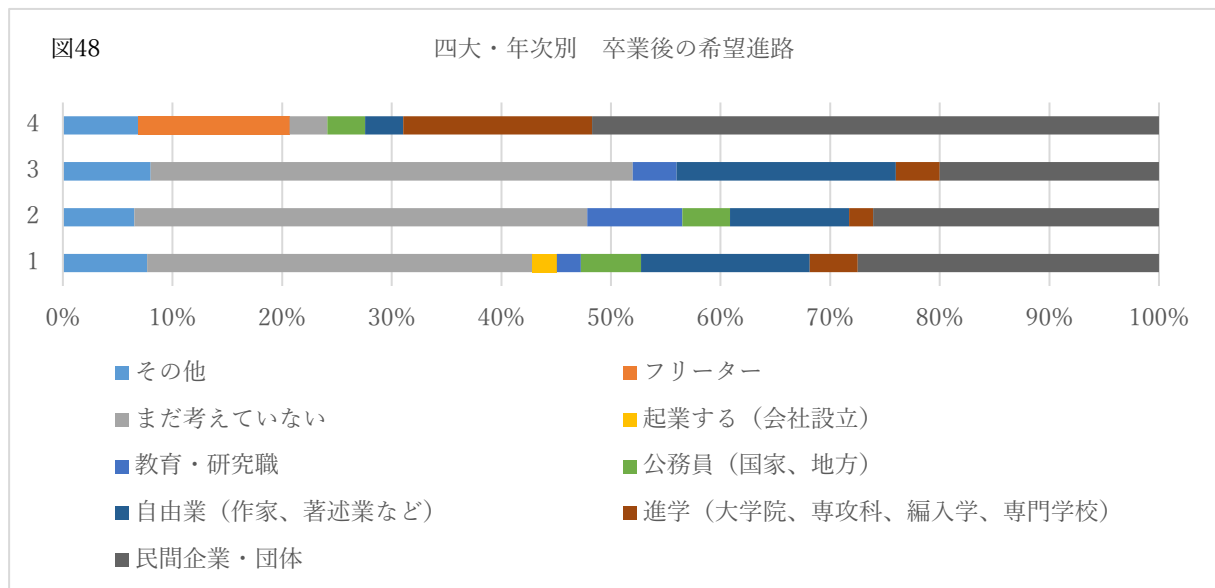


就職への不安についての回答は、上位3項目は四大、短大とも共通して1位は「**就職できるかどうか**」(四大18.0%、短大19.2%)、2位「**就職すること自体**」(四大15.7%、短大15.9%)、3位「**自分の適性に合った職業を選べるか**」(四大14.7%、短大15.3%)となった。この3項目は「私立大学学生生活白書2015」でも同様に上位3項目となっており、本学とは2位と3位が逆ではあるが、大学生共通の不安であることが明らかとなった。(図46)



希望進路は、四大1位「**まだ考えていない**」、2位「**民間企業・団体**」、3位「**自由業(作家・著述業など)**」、短大は1位「**民間企業・団体**」、2位「**まだ考えていない**」、3位「**自由業(作家・著述業など)**」となった。「私立大学学生生活白書2015」では、1位「**民間企業・団体**」、2位「**公務員**」、3位「**専門職(医師・弁護士・税理士・設計士など)**」となっており、「**自由業(作家・著述業など)**」の順位が高く、公務員希望が少ないのは、本学の特徴といえる。(図47)

四大の1位、短大2位が「まだ考えていない」であるが、回答者の年次分布をみると四大、短大とも1年次生が多い。四大の1、2年次生、短大の1年次生はまだ現実的な問題ととらえていないため、この結果になったのではないかと考えられる。

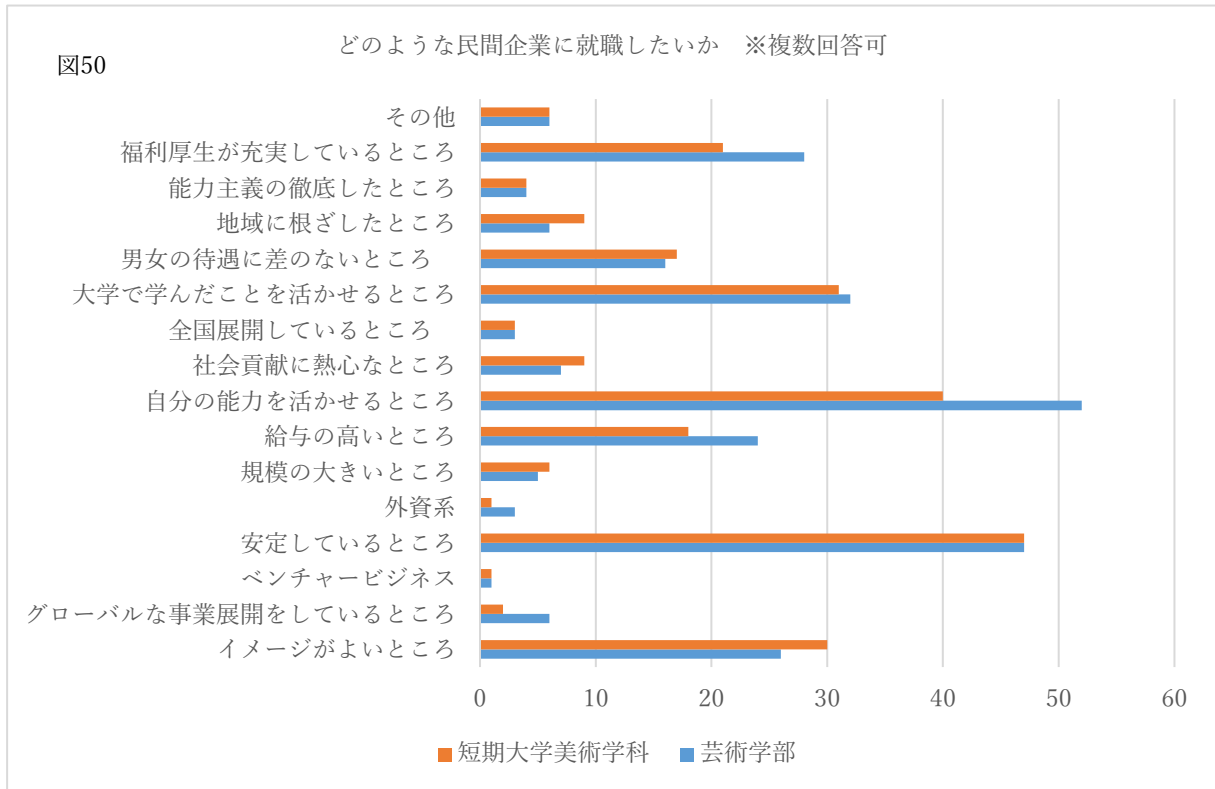


そこで、年次別にみると「まだ考えていない」と回答した四大の4年次生はわずか3.4%、短大の2年次生は10.5%である。しかし、四大の3年次生の42.3%が「まだ考えていない」と回答している点は看過できない結果である。(図48、図49)

また「自由業 (作家・著述業など)」を希望する学生は、四大では1年次から3年次までは15%~19%いるのに比して、4年次になると3.4%まで減少している。一方短大では1年次9.3%、2年次10.5%で四大ほど大きな変化はなく、むしろ2年次生で増加している結果となった。

図50

どのような民間企業に就職したいか ※複数回答可

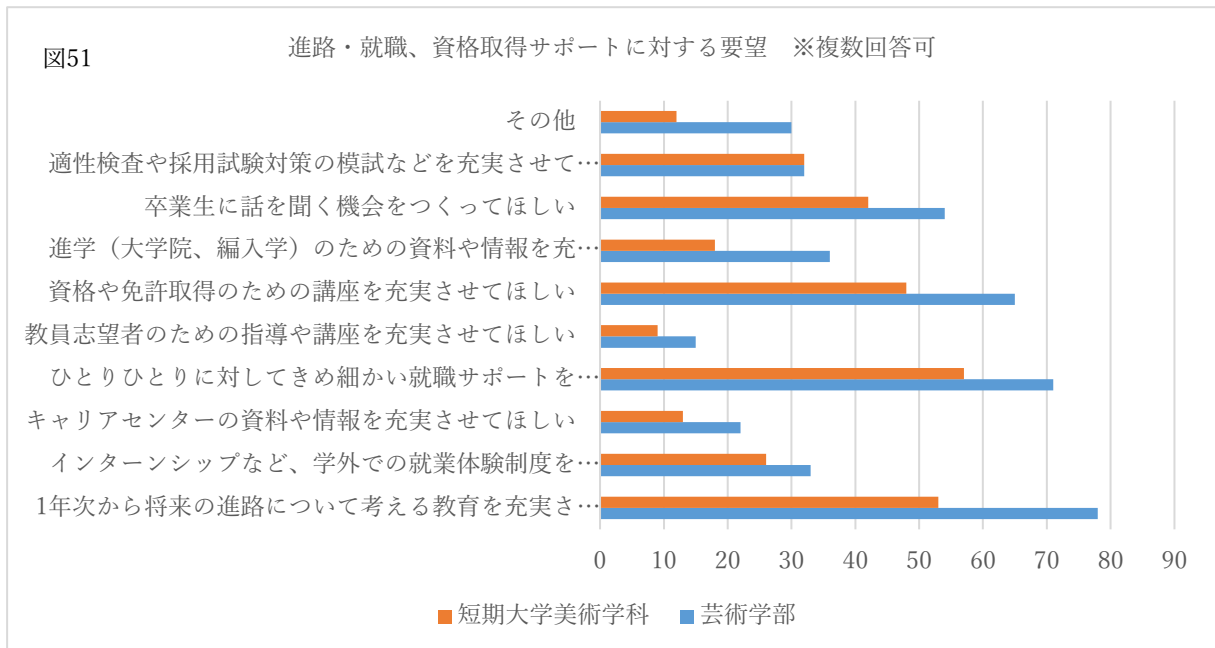


希望進路の1位である「どんな民間企業に就職したいか」という問いに対して、四大の1位は「自分の能力を活かせるところ」、2位「安定しているところ」、3位「大学で学んだことを活かせるところ」となり、短大は1位「安定しているところ」、2位「自分の能力を活かせるところ」、3位「大学で学んだことを活かせるところ」となった。1位と2位は逆になっているが四大と短大の上位の項目は共通している。(図50)

「私立大学学生生活白書 2015」では、1位「安定しているところ」、2位「自分の能力を活かせるところ」、3位「給与の高いところ」が上位3項目で、2010年調査でも同様の結果であったと報告されている。3位の「給与が高いところ」は、本学では四大で6位、短大でも6位で、本学の3位「大学で学んだことを活かせるところ」は、「私立大学学生生活白書 2015」では6位である。

図51

進路・就職、資格取得サポートに対する要望 ※複数回答可



進路・就職、資格取得サポートに対する要望についての回答は、四大の1位「1年次から将来の進路について考える教育を充実させてほしい」、2位「ひとりひとりに対してきめ細かい就職サポートを行ってほしい」、3位「資格や免許取得のための講座を充実させてほしい」であった。

短大の1位は「ひとりひとりに対してきめ細かい就職サポートを行ってほしい」、2位「1年次から将来の進路について考える教育を充実させてほしい」、3位「資格や免許取得のための講座を充実させてほしい」となっており、1位と2位の順位は逆であるが上位3項目は共通した結果となった。(図51)

■アンケート結果概要

▽進学理由・充実度

本学を進学先に選択した理由は、四大、短大とも「学びたい専門分野・授業科目があるから」と積極的な理由が1位であるが、全国的な傾向と同様に「自宅から通学できるから」が四大3位、短大2位となった一方で、「京都にある大学・短大だから」(四大3位、短大2位)のポイントが高く、「京都」のブランド力が高いことが明らかになった。

また、所属学部・学科の満足度、学生生活の満足度は四大、短大とも比較的高く、授業内容に満足し学生生活の満足度が高い学生は、所属学部・学科への満足度が高いという結果であった。

学生生活の中で改善してほしいことについては、「大学からの連絡事項等の情報提供の在り方」「教育施設等の充実」が上位であったが、大学の施設・設備等の満足度は四大と短大では大きく差があり、四大では「大変満足」「満足」が約40%程度であるのに対し、短大では67%が「大変満足」「満足」と回答している。

▽経済状況

四大、短大とも学生の約半数が(四大46.6%、短大52.3%)が経済的に「苦しい」「やや苦しい」と回答しており、約65%がアルバイトをしている。目的の1位は四大、短大とも「欲しいものを購入したり、遊び、旅行、趣味などにあてる」であるが、四大の自宅外通学の学生の1位は「主に生活費、学費などにあてる」であり、生活のためにアルバイトをしている学生も多いことが判明した。

▽正課教育

本学の正課教育の「教授陣」「カリキュラム構成」「授業内容」「ゼミなどの少人数教育」「施設・設備」の5項目の満足度は、四大と短大で大きく違った結果となった。短大においては、5項目とも「大変満足」「満足」と回答した学生が60%を超えているのに対し、四大は60%を超えた項目は1つもなく、「大変満足」「満足」と回答した学生は、「教授陣」52.3%、「カリキュラム構成」32.8%、「授業内容」38.9%、「ゼミなどの少人数教育」51.9%、「施設・設備」40.0%で、いずれの項目も「どちらとも言えない」とする学生が多数を占めた。また、「教育内容や方法に対する要望」では、四大、短大とも「多様な科目選択ができるカリキュラム」と「シラバスの充実」が上位項目となった。

この結果は、毎年度(前期・後期)実施している「授業評価アンケート」で得られる「満足度評価」や「シラバス評価」とは乖離しており、どのように判断すべきか検討が必要である。

▽正課外活動

本学の学生のクラブ・サークル活動への参加率は全国平均に比較すると低く、「クラブ・サークルに入らなかった理由」の1位は「時間を束縛されたくない」である点が特徴的である。ただし、

クラブ・サークル活動に参加している学生の方が、参加していない学生に比して、学生生活が充実していると感じている。

▽不安、悩みについて

ほとんどの学生が、何らかの不安や悩みを抱えて学生生活送っている。不安や悩みの上位は「就職や将来の進路」「授業など学業の事」「学費、生活費等の経済問題」である。就職や将来の事、学業の事に悩んでいても、相談する相手は「友人」「家族」であるか、「誰とも相談しない」で、大学の教職員や学生相談室を活用する学生は少数である。また「何でも話せる友人がいない」と回答した学生は「誰とも相談しない」が四大、短大とも 30%以上となっている。

▽進路・就職について

就職に対しては四大、短大とも「就職できるかどうか」「就職すること自体」「自分の適性に合った職業を選べるか」といった不安を感じており、「1年次から将来の進路について考える教育を充実させてほしい」「ひとりひとりに対してきめ細かい就職サポートを行ってほしい」「資格や免許取得のための講座を充実させてほしい」というサポートを要望している。ただ、卒業後の進路について、四大の3年次生、短大の1年次生は「まだ考えていない」と回答する学生が多く、アンケート調査が11月～12月であったことを考えると、もう少し早い時点で将来の進路について考えさせる必要があるのではないかと考えられる。

「学生生活アンケート」は、2011年度に実施して以来6年ぶりである。回収率は40%程度ではあるが、学生の生活実態や要望を数値として把握できたことは有意義である。今回のアンケート結果により明らかになった課題を今後の学生支援体制の改善に生かすとともに、この結果を基礎資料として継続的にアンケートを実施し経年的に評価することが重要であると考えられる。